

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子 敏	法人・ 事業所 の特徴	平成23年3月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気の中で、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。独居や老々世帯のご利用者も多く、緊急時や災害時に遠方のご家族も安心してご利用頂けるように定期的に近況報告や連絡をとるように努めている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	五井 奈央		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	1人	1人	1人	1人	人	3人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の時期はH30年7月を予定。職員のスキルアップのため内部研修だけでなく、外部研修の計画を立てる。	パート職員も自己評価にも参加していた。 7 実施年月を「〇月までに行なう」などと表記し、管理者を中心に行っていた。	「本人のしたい」の思いを反映して、H30年11月に個別で外出や外食、やりたいことの実現の為に、各職員が計画して行っていた。運営推進会議のなかでも報告があった。	自己評価を行う時期は次年度7月末までに行う。 今後も管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を活用して、職員間で日頃より意識していく。 年度末の管理者と職員との面談のなかで、行きたい研修についても聞き取りしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	レゾカフェで行なった予防体操やクイズや行事の内容を利用者の余暇活動にも行って活用していく。	夜間（20：00～7：00）の施錠はあるが、日中は常時開錠されている。 ・季節の壁画などがあって四季が感じられた。	月の行事に合わせて、ご利用者から季節の飾りを職員と一緒に作って、掲示している。 翌月のカレンダー作りを行っている。（自宅に掲示用）	今後も施錠することの意味（身体拘束になる）を定例会議や身体拘束の内部研修等で話し合っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も各利用者さんのエコマップを継続して話し合っていく、地域で暮らしていくために、助けてもらっていることや、各者の役割を確認していく。	ご利用者・ご家族アンケートに「どなたにも優しくてありがたく思っています。」とのお言葉を頂いた。	毎年恒例の地域の行事などご利用者と職員とで参加し、地域住民にも知ってもらう機会ができた。 若年性の認知症の方のご利用時に、越路支所の保健師との情報交換も行った。	今後も地域行事に参加して行くことで「あおぞら館」を知ってもらい、地域の方々に相談事や災害時等に協力できる心構えを、職員全体で話し合っていく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>独居や認知症高齢者をねらった業者販売などを見つけた時の対応と報告の強化を行ない、職員を含めて今後の対策を話し合う。</p>	<p>行事だけでなく、日頃の通いサービスに来られているご利用者と職員とで、散歩やドライブにでかけたり、法人で作っている近所の畑に野菜の収穫にでかけている様子がおおぞら新聞に掲載されていた。 第4回の会議の中で、オレンジカフェをご利用の方（ご近所）の事例をあげて事業所として顔なじみの関係を築いていることを報告した。</p>	<p>越路地区にある障害者施設（社会福祉法人 中越福祉会）の合同地域生活推進協力会議にも参加させて頂き、越路地区の区長や民生委員との交流もあった。H30年12月も参加を予定してる。</p>	<p>ご利用者やご家族に請求書を郵送する際、オレンジカフェのチラシや長岡市発行のオレンジカフェ通信などを同封したり、回覧板等を活用して地域の方にも参加できるように定期的に区事務所などにお願ひする。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>構成員の方々に心配事や今後の課題などについて話す場を会議の中で計画する。</p>	<p>平成29年度の3月の運営推進会議を活用して、構成員の方に「困りごと等」を発表してもらった機会をつくった。 運営推進会議で「事後報告、ヒヤリハット報告」をすることができ、構成員の方にも施設内のご利用者の情報を報告することができた。 オレンジカフェをご利用の方（ご近所）を事例にあげて報告を行なった。</p>	<p>小規模の利用者は独居の方が多く、同居の家族も普段仕事をもっているため、2ヶ月に1回の会議に出席することが難しい。 介護保険サービスの特にデイサービス等の大勢の知らない人が集まる場への参加が少ないことから、男性は、退職後の役割や自宅以外の地域活動などできなくなった時が同居の家族が困る時だとの話があった。</p>	<p>年度末の運営推進会議（H31年3月）では、構成員の方々から今後の地域活動や災害時のおおぞら館に対しての要望や相談などを話し合う場として時間を設ける。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>支所の方から防災ラジオの提案を頂き、H29年12月より設置したが、同一建物に常時利用者と職員がいるグループホームがあるので、設置場所は2F707にした。今後も施設内で連携をとって災害対策・情報の共有に努める。</p>	<p>事業所がある浦上の地域には、日中高齢者のみの世帯も多いので、地域住民としては施設に職員がいてくれることが安心につながっている。</p>	<p>高齢者は避難指示が出ている事もわかっていないことがある。職員は携帯電話で知ることが多いという話がでて、支所の方が防災ラジオや、避難支援のガイドブックの情報提供を行なってくれた。高齢者は、長年その地域に住んでいられる為、職員との危険に対する考えが違ふこともあり、無理に宿泊をさせられたなどの意見がやすい。</p>	<p>風水害時、事業所は立地条件的に被害が少ないと思われるため、事前にご利用者・ご家族と連絡を取り合っ、て、宿泊や訪問の回数を増やしていくが、初めの契約時に危険が見込まれる地域にお住まいのご利用者・ご家族（特に独居）には「避難準備情報が発令された時の対応」を話し合っていく。ご本人が望まれない宿泊も考えられるため、事前に話し合い記録に残していく。</p>